居場所のチカラ

２つの事例から見る

身近な地域の居場所づくり支援・助成事業

５年のあゆみ

社会福祉法人　武蔵野市民社会福祉協議会（市民社協）

身近な地域の居場所とは－

身近な地域で、住民によって運営される
誰でも自由に出入りできるつながりの場

内 容

それぞれの団体が内容を決めて、自由に活動しています。おしゃべり、食事、手芸やゲームなど多岐にわたるプログラムを行っています。また、それらに参加しない人も一緒に過ごせます。

場 所

個人宅、喫茶店、コミュニティセンター、マンションやアパートの集会室など、様々な場所で行っています。

かたち

「身近な地域の居場所づくり助成事業」を活用しているところのほか、地域社協（福祉の会）※右記参照 で実施しているところ、自主グループとして活動しているところもあります。

みなさんは「**居場所**」と聞いて何を思い浮かべますか。

自宅、学校、職場、コミュニティセンター、カフェなどの **場所** だったり、
家庭、友人、同郷の人、趣味活動の仲間などの **関係性** だったり…
同じ **対象・境遇・関心ごと** で集まる場ではないでしょうか。

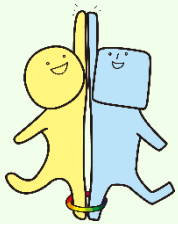
市民社協が推進する「**身近な地域の居場所**」は、
対象者を限定しない 住民主体で運営される交流の場 です。

市民社協 と「身近な地域の居場所」づくり

市民社協の基本理念は、「みんなが主役 ささえあいのまちづくりをめざして」です。
「身近な地域の居場所」をとおして隣近所での顔見知りが増え、地域のつながりが広がっていくことが、ささえあいのまちづくりの原点になります。
市民社協では、地域担当職員 ※詳細は P18 参照 が「身近な地域の居場所」の立ち上げの相談や、立ち上げ後の運営支援をしています。

平成 28 年 9 月～令和 3 年 3 月までの相談件数 ※平成 30 年度までは助成金未交付団体の相談も含む

48 件	222 件	149 件	104 件	116 件
（平成 28 年度）	（平成 29 年度）	（平成 30 年度）	（令和元年度）	（令和 2 年度）



市民社協キャラクター
あいあい

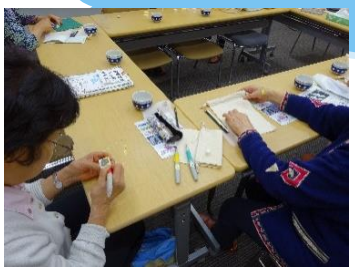
地域社協（福祉の会）とは？

地域社協（福祉の会）は、市民社協が立ち上げを呼びかけた地縁型の住民組織です。困ったときにお互いが助け合えるような関係性をつくるため、市内 13 地域に分かれて活動しています。地域社協ごとに活動は様々ですが、「自分の住む地域をよりよくしていこう」という思いは共通です。市民社協では、「身近な地域でのささえあい」をすすめるための活動の大きな柱のひとつとして、地域社協の活動支援を全面的に行っています。

身近な地域の居場所づくり支援・助成事業の

あゆみ

はっぴーサロン



きりん塾

運営開始団体

つどい（桜堤）
Viola（関前）
よりそい（吉祥寺北町）
境南なでしこ会（境南町）
オープンハウス@クラフトハウスばく（関前）
西久保三丁目サロン（西久保）
すみれの家（境南町）

きらくら（桜堤）
はっぴーサロン（境南町）
きりん塾（吉祥寺本町）

事業開始！

平成27年度以前　平成28年　平成29年

事業開始以前も、市民社協では「居場所」の運営支援を行っていました。
第３次武蔵野市地域福祉活動計画の重点的な取り組みに位置付けられ、事業開始を機に、**助成金**を活用した「身近な地域の居場所」が増えました。

身近な地域の居場所づくり助成事業

市民社協では、身近な地域での居場所づくりを行う団体に対する活動費の助成を行っています。助成の対象となる活動や団体には条件があります。

対象となる活動

- 開催場所が武蔵野市内
- 近隣住民が対象
- 地域住民に開かれた活動
- 開催頻度が２か月に１回以上
  （１回あたり概ね２時間以上）
- 特定の趣味やスポーツ等に限定しない活動

西久保ひだまり

sun

松の家

KT 吉祥寺サードプレイス（吉祥寺本町）
sun（緑町）

松の家（桜堤）

やまぶきの会（中町）
西久保ひだまり（西久保）

まだまだ続くよ！

平成 30 年　令和 元 年　令和 2 年

対象となる団体

- 主に活動場所の近隣住民によって構成された非営利の団体
- 継続的かつ計画的な活動を行う団体
- 当該年度に武蔵野市および市民社協による他の助成金を受けていない団体
  ※武蔵野市からの補助金を受けている団体でも、その補助金を受けている活動と本申請事業が明確に異なる団体は申請可能

詳細は、市民社協 HP 掲載の「あなたのオモイをカタチに。身近な地域の居場所づくり助成事業のご案内」をご覧ください。

助成金額

上限 10 万円（①と②の合計金額）

＜算出方法＞

①活動費（1 回あたり 2,500 円）＋②会場費（実費：1 回あたり 2,500 円を上限）

参加者からいつの間にか
運営者になり、身近な人と
楽しく過ごせています。

好きなことを通じて、
自然と交流できています。

同世代の子育てサロンには足が向かなかったけれど、
居場所に参加してみると様々な世代の人と交流する
ことができて、心のよりどころになっています。

居場所づくりでこんな

自分の家を『地域のために提供』と思って
いましたが、貴重な出会いがあり、結局は
自分のためにもなりました。

近所の大家族のような場所を目指して
始めました。道で会った時に挨拶する
人が一気に増えました。

運営者の声

いつでも市民社協のサポートがある
ので、安心して活動できています。

参加者の声

自分の特技を活かす場ができて、
やりがいや生きがいになりました！

おしゃべりから、いつの間にか日常生活の
相談ができるようになりました！

行くと誰かに会えるのが、
毎日の楽しみです。

いいことありました！

「身近な地域の居場所」では…
多世代が集うことにより、自然と交流できる機会が生まれる

⇩

どんな人でも　役割　が生まれやすく、
自分らしく　いきいきと　過ごすことができる！

事例紹介①

きらくら

きらくにくらそう！

（運営団体：きらくらの会）

基本データ

会　　場：西部コミュニティセンター
開 催 日：毎月第１日曜日　10：00～13：00
特　　徴：休日の昼間に、世代にかかわらず参加できるくつろぎと食事の場
活動期間：平成 29 年５月～令和元年３月

きっかけ

平成 28 年６月 ▶ 市民社協への電話

自宅で子ども食堂をやりたいと思案していた **A さん**。知人の紹介で栄養士の **B さん**と出会い、一緒に市外の子ども食堂を見学した。そこの主催者のアドバイスのもと保健所に相談したところ、**A さん**宅の設備では難しいので、他の方法がないか市民社協に相談してみてはと言われ、**A さん**から市民社協へ連絡をした。

新たな出会いに期待！それと同時に、地域活動の経験がない方たちへの立ち上げ支援にドキドキ。

市民社協
地域担当職員

はじまり

６月 ▶ 武蔵野プレイスにて

A さんと **B さん**の２人と地域担当職員の初顔合わせ。２人からはここに至るまでの経緯やどのような場を作りたいか等、地域担当職員からは武蔵野市の地域資源や主に西部地域の活動状況等の話をした。この後、数回の話し合いを経て、対象を子どもに限定せずに行うこと、場所は西部コミセンとすることを目標として準備を進めていくことに。

A さんと B さんのやりたいことには「できること」と「実践が難しいこと」、「調整すれば実現できそうなこと」があるので、まずはその整理から始めましょう。また、別のやり方も紹介できます。焦らずに一つずつ進めていきましょう。

地域担当職員支援のポイント

地域に溶け込んでいけるよう、普段住民と接しているからこそわかる地域の雰囲気や大事な情報を伝えたり、キーパーソンと引き合わせて意見を聞いたり等、各方面との調整を幅広く長期的に行っていく。

準　備

打ち合わせ　7月 ▶ 市民社協にて

地域担当職員が各方面と調整している傍ら、２人も企画案を作成しながら知り合いの地域活動者（のちに地域社協の **C さん**と判明）へ相談したり西部コミセンの下見に行ったりしていた。まずは場所が決まらないことには何も始められないと思っている様子。

場所の確保はもちろん大事ですが、地域に活動を根付かせるためのアクションもしていきましょう。運営面だけでなく、チラシを配ったり口コミで広げたりと広報面も必要なので、そのためにもまずは地域で顔見知りを増やしていって欲しいと思います。

他活動の見学　8月 ▶ 市内の子ども食堂と高齢者向け食堂にて

A さんと **B さん**と地域担当職員が一緒に２か所を見学。以前見学に行った市外の子ども食堂が「子どもが１人で来て帰るところ」だったので、参加者層や雰囲気の違いに驚く。また活動により対象者も様々で、「○○食堂」といっても色々な形があると知った様子。市内の子ども食堂では、西部地域在住の活動者 **D さん**を紹介。

実際の活動を見たり、話を聞いたりしたことで、自分たちはどのような活動をしたいのかを改めて考える機会になったみたい。理想の形を大事にしながら、武蔵野市に合った活動をしてもらいたいな。そして、食の提供は手段の１つであって、活動の真の目的はその先にあることも忘れないで欲しいな。

主任児童委員と会う　9月 ▶ 西部コミセンにて

主任児童委員の **E さん**と４人で会う場を設定。**A さん**と **B さん**がやりたいことについて説明し、**E さん**から西部地域の地域性に合わせた開催時間の設定や広報の仕方等についてアドバイスをもらった。さらに、地域に根差した活動とするためには、まずは地域を知り、つながりや信頼を築き、活動の基盤を作っていって欲しいとエールをもらった。

やっぱり直に話をしてもらうことで、より理解が深まるし、説得力がある。この地域にはどんな活動が良いのかを整理しながら、もう一度企画を練り直して欲しいな。今後も応援してくれる地域の人を紹介していこう。

打ち合わせ　12 月 ▶ A さん宅にて

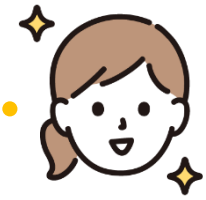
練り直した企画案を確認。２人はこの間に地域社協や青少協等の地域活動にも参加し、肌で感じた地域性を反映させた具体的な内容になっていた！もう一度 **E さん**に話を聞いてもらい、地域の人たちの応援をもらえるようお願いすることに。

西部コミセンでやりたいという明確な理由もできていてすごくいい感じです！せっかくだから C さんと D さんにも声をかけて、話を聞いてもらいましょう！

意見交換会　平成 29 年１月 ▶ 西部コミセンにて

A さんと **B さん**、**C さん**・**D さん**・**E さん**、地域担当職員が集結。開設時期を春頃と決め、具体的に話を進める。それぞれつながりのある地域住民に開設の案内をすることに。

企画内容が具体的になり、２人の意志もより明確になって、とてもキラキラしている！これなら本格的に開設に動き出しても大丈夫そう！
応援してくれる人が増え、ポジティブな良い時間だった！



コミセンと打ち合わせ　2 月 ▶ 西部コミセンにて

西部コミセン会長の **F さん**に説明。コミセンとしても初めての話でどうなるかはわからないけれど、直接説明に来てくれて熱意は伝わったので、運営委員会にかけてみると言ってもらえた。その後、いくつかの事項を改善できれば使用 OK との返事が！
最終企画案が完成し、いよいよ初日に向けての最終調整を行った。

約１年かけて準備を進めてきた。あとはとにかくやってみるしかない！この１年をとおして２人はお互いのことを理解し、何でも言い合える良い関係になったなあ。

運営開始

初　回　5 月

約 40 人の参加があり、予想以上の大盛況！主に高齢者の参加が多かったが、子どもも数人来ていた。おいしい食事のおかげでおしゃべりにも花が咲いていた。

グランドオープンおめでとうございます！実践後の振り返りをしながら、楽しく活動を続けていってください！

2回目　6月

参加者は約 20 人で、前回も参加した人と初めての人が半々くらいに。前回よりスムーズに運営でき、調理担当のメンバーも参加者とおしゃべりできていた。自宅のポストに入っていたチラシを見て参加した人もいた！

やりがいを早くも感じている様子。「自分たちの地元で居場所をやることに意義を感じる、他の団体とも連携して地域を盛り上げていきたい」という声が嬉しかったな。

7月～
令和2年2月

活動中のエピソード

- 活動を手伝いたいというメールがコミセン宛に来たり、親子で参加していた母がお手伝いしてくれたりして、**活動するメンバーが増えた！**
- 参加者が市民社協と本助成事業を知り、**隣の町に新たな居場所をつくった！**
- “きらくらでの食事後にコミセンのロビーでコーヒーを飲みながらおしゃべりして帰る”という流れが自然とでき、コミセンから**「第１日曜日がにぎやかになった」と言われた！**

活動をとおして、A さんと B さんがすっかり「地域活動をしている人」になっている！信念をもって活動していて、とても活き活きしているのが感じられる！

そして…

卒　業　令和２年２月 ▶ 市民社協への電話

市役所から「東京都子供食堂推進補助金」の話を受け、検討した結果、令和２年度からはそちらに移行して本助成事業の活用は卒業することに。また、きらくらの活動と並行して、西部地域内の別会場で２か所目の開設を目指すという新たな目標も！

団体が力をつけてステップアップしていく姿は、市民社協にとって何よりも嬉しいことです！月２回の活動は大変だと思いますが、より多くの人に届くよう活動を増やしたいという気持ちを応援します!!

地域担当職員支援のポイント

助成事業申請の有無にかかわらず、団体が次のステップへ進んだあとも、継続して支援していく。

※令和２年３月以降、新型コロナウイルスの影響により活動休止中

事例紹介②

すみれの家

（運営団体：すみれの会）

山路来て
何やらゆかし
すみれ草
（松尾芭蕉）

基本データ

会　　場：空家（境南町５丁目）
開 催 日：毎月第３金曜日　11：00～14：00
特　　徴：住宅開放型ならではのゆったりとした空間演出と居心地の良さ
活動期間：平成 28 年 10 月～令和３年３月

きっかけ

平成 28 年６月 ▶ 境南地域社協５丁目ネットワークにて

助成事業の開始について市民社協から説明すると、個人宅を地域のために提供しても良いという人が５丁目にいるという話に。居場所づくりのために借りることができないか、近い内にその人に相談しに行くことが決まる。

家を提供してくれる人がいるとは!!
タイミング良く話が出てくるとは思わなかった！

市民社協
地域担当職員

はじまり

８月 ▶ Ｇさん宅にて

５丁目の有志と事前打ち合わせをしたうえで、**Ｇさん**を交えて顔合わせと事業説明を行った。亡くなった両親が住んでいた空家を、両親が喜んでくれることに使いたいと考えていた**Ｇさん**。ご自身は隣の家に住んでいる。
翌週には、居場所名と団体名や予算決め等を行い、９月から活動を開始することに。

ハイペースで進んでいるけれど、オーナーとなるＧさんはついてきているかな？どのような居場所にしたいのか、もう少し時間をかけて話し合った方がいいような気がするけれど…

準 備

９月 ▶ 市民社協との電話やメール

備品や広報の準備が着々と進められているけれど、早く開始したい気持ちばかりが先行して、メンバー間の意思疎通があまりできていない様子。
地域担当職員から全員での話し合いを提案し、メンバーが集合。その結果、９月はプレオープンとして実施し、10 月から正式に開始することになった。

数名で話し合った内容の了解をＧさんにもらいに行く形ではなく、Ｇさんを含めたメンバーみんなで話し合いをしましょう。焦る気持ちもわかりますが、大切なのは早く始めることよりも、全員の合意を得て始めることではないでしょうか。

活動開始

プレオープン　9月

長年の地域活動で知り合った人たちに声をかけ、20 人以上の参加があった！メンバーも時間配分や動線等を確認でき、手ごたえを感じることができた。

みなさんのネットワークで大勢の地域住民が参加し、新しい居場所の開設を喜んでくれましたね！

初　回　10 月

プレオープンからメンバーも増えての実施。参加者数は前回の半分程度になったが、だからこそ落ち着いて“普段”を意識した運営ができた。

特徴である“居心地の良さ”を十分に感じることができた。終了後の反省会では、早くも次の目標を見据えている！

食事提供のお試し　12 月～平成 29 年１月 ▶ 反省会にて

食事提供を行いたいという意見がメンバー内であり、当初は４月から開始する予定だったが、12 月と１月にお試し実施。課題はありつつもうまくいったので、予定よりも早く開始したい人と予定どおり４月からにしたい人で意見が分かれたが、予定どおり進めることになった。

全員で話し合いができるようになったけれど、Ｇさんは自分の心の内を誰に話していいのか困っているように見える。市民社協の役割についての説明も中途半端なままだし、一度どこかでゆっくり話したいな。

地域担当職員支援のポイント

地域活動が初めてのオーナーと、すでに長年にわたり活動している人たち、それぞれの思いや立ち位置を理解し、両者がスムーズに交わることができるようにする。

Gさんと話し合い

1月 ▶ 武蔵境駅周辺の飲食店にて

地域担当職員からGさんに連絡し、1対1で会うことになった。Gさんからは地域活動や空家を提供することへの思い、地域担当職員からは市民社協や地域社協、居場所について等、沢山の話ができた。これ以降、何かあれば直接相談をもらえるようになった。

ゆっくり時間を取ることができて良かった。やっぱり最初の段階できちんと色々なことを伝えておくべきだったと反省。特に、市民社協が何をできるのかをしっかり伝える必要があったな。

次年度に向けて

2月 ▶ 反省会にて

4月から本格的に開始する食事提供、それに伴う運営体制についての話し合いを行った。役割分担表を作成し、シフトを組んで実施することに。

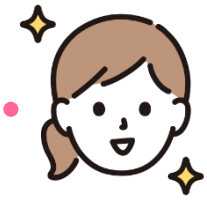
責任感が強いみなさんだからこそ、まずは自分たちが活動を楽しむことを忘れないで欲しいです。各役割を輪番で担当してできるようになるのは大事ですが、それぞれがやりたいことや得意なことを担当するのも大事です。

4月～
令和2年2月

活動中のエピソード

- 一人暮らしのHさんは、毎回手作りケーキの差し入れを持参！
  「趣味だったお菓子づくりが再開できて、みんなにおいしいと言ってもらえることが幸せ」
- 毎月必ず参加し、いつの間にか指定席ができたIさん。得意の折り紙を披露し、時には先生として季節の花などをみんなで折った！
- 高齢のJさん夫婦はいつも一緒。毎月すみれの家に来ることが目標で生きがいだからと、二人で寄り添いながら徒歩15分の道のりを自力で通った！

誰かしらの手作りおかずやデザートの差し入れが当たり前のように並んだり、春には元和菓子職人と一緒に桜餅をホットプレートで作ってみたり。みんなの特技を自然と披露できて自然に役割が生まれることが、すみれの家の自慢！



コロナによる活動休止

令和２年３月～

話し合い

８月 ▶ すみれの家にメンバーが集合

メンバーからコロナ禍について様々な意見が出る。

「すみれの家は“居場所”なんだから、こんな時だからこそ食事がなくても顔を合わせての交流が必要なのでは？」

「食を通じての交流がすみれの家の特徴。本来の形で再開できるようになるまで休止を続けるべき」

「どんなに感染対策をしっかりしたとしても 100%大丈夫とは言い切れないから、どちらにしても今はできないのでは？」

このままでは答えが出ないので、参加者にもアンケートを取ってみることに。

先が全くわからない誰もが初めての感染症。それぞれの意見はどれもが正解で答えが出せない。少し様子を見るしかないのかな…

地域担当職員支援のポイント

活動への真の気持ちを吐露して欲しい時に、遠慮せず意見を言えるように引き出したり、時には代弁したりと、本音で語り合えるような場づくりをする。

そして…

活動終了

９月 ▶ すみれの家にて

アンケート結果も意見は様々だった。それらを踏まえてもう一度話し合ったが、どんなに時間をかけても答えを出せない。ただ、現状での再開が望ましくないのは事実。

またいつか集まれる日を信じて、活動終了を決定した。

このような形での活動終了はとても残念だけれど、この間の話し合いをとおしてそれぞれが活動の根本を見つめ直す良いきっかけにもなった。また地域で活動を始めたいと思った時に相談に乗れるよう、皆さんとは今後も個々のつながりを継続していこう！

地域担当職員支援のポイント

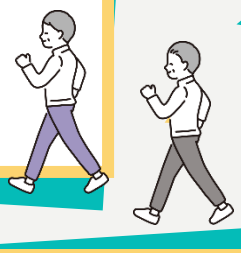
活動を終了することに迷いや不安が生じるのは当然のこと。メンバーの気持ちに寄り添いつつ、居場所がなくなってもすみれの家が作った地域のつながりは続いていくこと、時代や状況によって活動の形は変わるものなので、活動終了は前向きな決断でもあることを伝える。

コロナ禍の「居場所」

令和２年４月の緊急事態宣言発出により、コミセンなどの施設は一斉に休館し、場所を借りていた団体や食事の提供を行っていた団体、個人宅で行っていた団体も軒並み活動休止を余儀なくされました。どこかに集うことが難しい状況が続く中、「**今できること**」を考えて実践した居場所がありました。

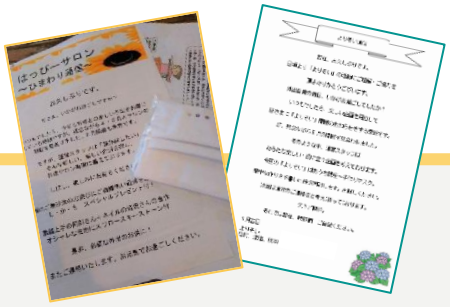
密を避けて野外で活動

「自粛生活が長引いたことによる高齢者のフレイルが心配…。」
近くの公園でのラジオ体操や、近所を一緒に散歩する活動など野外での活動を始めた団体がありました。
体を動かして気分もリフレッシュ！
生活リズムの維持にもつながりました。



会わずにつながる方法

お知らせの手紙に手作りマスクを同封したり、手作りマスクの作り方やクイズを掲載したりと、自粛生活を楽しんでもらう工夫をした団体がありました。送った手紙に対して、返事をくれた参加者や電話をくれた参加者もいらっしゃったようです。



今できる範囲で

「こういう時だからこそ開きたい。」
外出自粛でどこにも行くところがなくなってしまったからこそ実施したいと、マスク着用、検温、消毒、三密の回避などの感染症対策を徹底した上で活動を継続した団体がありました。

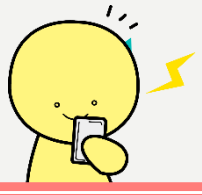
これまでのこと、これからのことを考えよう

活動の再開が見込めない状況が続く中、自分たちの活動についてじっくり話し合った団体がありました。活動をはじめた目的を振り返ったり、今後の活動についてゆっくり話し合ったりできる機会は普段あまりなく、貴重な時間になりました。

他の団体は今どうしてる？

市民社協では、自分たちの活動について悩むボランティア団体から何度も「他の団体はどうしているの？」という相談を受けました。そこで、少しでも活動者の力になれば…との思いから「コロナ禍の地域活動」を紹介する動画を３本作成しました。団体間の交流も難しい状況でしたが、動画をとおして情報の共有ができました。

動画はこちらからご覧いただけます→



新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちの暮らしは大きく変化しました。マスクの着用が当たり前になり、大人数での食事は難しくなってしまいました。また、リモートワークやオンライン授業が推奨され、そういったオンラインツールは生活に馴染み始めています。「密」を避け、できるだけオンラインでつながろうという動きの一方で、コロナ禍で孤独を強く感じたり、無気力になったりする人が増えているという話も耳にします。この非常時を迎え、「人と会うこと・接すること」の尊さを以前よりも強く感じるようになった方も多いのではないでしょうか。

コロナ禍、そしてその終息後、
あなたはどんな「身近な地域の居場所」を求めますか？

居場所交流会 & 学習会

平成 29 年度から計 6 回実施しています。

①平成 29 年 8/31@武蔵野市役所　②9/6@武蔵野スイング　③9/9@武蔵野商工会館

コンセプト 居場所づくりをやっている方、興味がある方の学習会＆交流会

23名参　16名加　15名者

今の自分にできることを
考えていきたい！

自分の住む地域に
居場所を立ち上げたい！

④平成 30 年 9/8@成蹊大学カフェ＆ホール COMMichi

コンセプト 「居場所づくり」と聞いてやってみたいと思った方と活動者の交流会

58名

同じ思いを持った人と
出会うことができた！

様々な方の思いや取り組みに
触れて、刺激をもらった！

⑤令和 2 年 1/25@CAFE&BAR dizzle

コンセプト 「居場所づくり」と聞いてやってみたいと思った方同士の交流会

17名

子育てパパの居場所づくり
をやってみたい！

子供からお年寄りまで色々な人と
交流できる場を作れたらいいな！

⑥令和 3 年 3/13@武蔵野スイング

コンセプト 居場所づくり助成事業の卒業団体を含めた 15 助成団体の交流会

19名

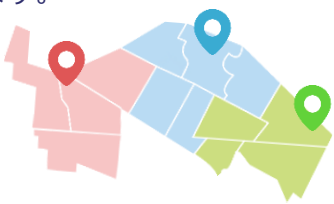
他の地域の方々の考え方、
活動の工夫、アイディア等を
取り入れていきたいと思った。

交流することで、
これからの活動の
力をもらった！

市民社協の地域担当職員

※件数は令和２年度の実績

市民社協は、身近な地域での支え合いやつながりづくりのための活動を支援しています。
その支援方法の１つとして、地域担当職員を市内３圏域に１名ずつ配置しています。



年齢や対象を問わず個人や団体からの相談に対応

市民社協では対象を限定せずにあらゆる相談を受け、必要に応じて関係機関におつなぎします。
また、困っている人からだけでなく、何かをしたい人からの相談にも応じています。

＜個人の方からの相談＞　… 107 件

- ボランティア活動をやってみたい
- 自宅を地域のために使って欲しい
- 趣味のギターを施設で演奏したい
- 東北のために寄付したい
- 急なケガで買い物に困っている

＜団体からの相談＞　… 591 件

- 知り合い３人で居場所を始めたい
- 活動費が足りない…
- 参加者を増やしたい！
- 活動中の保険ってどうしたらいい？
- 居場所に来ている人の様子が心配…

などなど

地域活動団体の活動、会議や打ち合わせへの参加

会議や打ち合わせに参加すると言っても、進行やファシリテーションをするわけではありません。課題を一緒に考えたり、他団体の事例紹介など必要に応じた情報提供をしています。また、団体内で意見のすれ違いが起きた場合など、人間関係を含めた団体内での様々な出来事についても、よりよい活動のためにフォローすることもあります。

会議や打ち合わせへの参加 … 258 件

活動への参加　… 55 件

出向くことを大事にした顔の見える関係づくり

相談したいと思っても、直接相談窓口に行ったり電話をしたりする人は多くありません。誰かに聞きにくいことやちょっとしたことなら尚更です。雑談も相談も、顔の見える人の方が話しやすいのではないでしょうか。地域担当職員は市民にとって相談のしやすい「顔の見える人」になるために、地域活動団体の会議やイベントなど住民が集まる場に出向くことを大切にしており、出向いた先で受けた相談件数は全体の約３割になります。

出向いた先で受けた相談 … 274 件（26%）

市民社協事務所内で受けた相談　… 765 件(74%)

対象別活動件数

地域社協 … 491 件

テンミリオンハウス … 292 件

居場所助成団体 … 116 件

ボランティア団体（上記以外）　… 273 件

市役所・関係機関 … 244 件

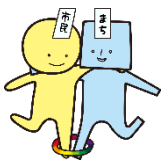
企業・その他法人 … 25 件

居場所のチカラ

～２つの事例から見る身近な地域の居場所づくり支援・助成事業５年のあゆみ～

発 行 年 月　令和４年３月

編集・発行　社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会



武蔵野市吉祥寺北町１-９-１
TEL 0422-23-0701　FAX 0422-23-1180
E メール shimin@shakyou.or.jp